

もりおか復興応援フリーマガジン

# stitch

[ステッチ]

TAKE  
FREE

VOL.13  
2014.09.16

発行／盛岡市

一人ひとりの、思いのかけら。  
集めてつなげば、大きな未来。



〔特集〕

「今、どうしてる？」

改めて知りたい、復興のこと

インタビュー

小笠原満男（プロサッカー選手）

一人ひとりの、思いのかけら。  
集めてつなげば、大きな未来。

飛び出していたり、引っ込んでいたり  
一人ひとり違う、思いのかたち。

合わなかつたり、見失つたり  
投げ出したくなつたりもするけれど  
つながったピースが勇気をくれる  
道のりは遠くても  
やつぱり、思いをつなげたい。

一人ひとりなら、思いのかけら  
集めてつなげば、大きな希望。  
ピースがもつと、集まれば  
気持ちがもつと、集まれば

きっと、力タチにできるのに。

集まれ、希望のかけら、  
広がれ、みんなの思い。

一人ひとりが持っているピース  
つなげよう、未来のために。



もりおか復興応援フリーマガジン

# Stitch

vol.13 2014.09.16

02 一人ひとりの、思いのかけら。  
集めてつなげば、大きな未来。

[特集]

04 「今、どうしてる?」  
改めて知りたい、復興のこと

10 三陸うまいもん紀行 大盛り編

12 岩手三陸魅力発見ボランティアツアー

14 インタビュー 小笠原満男 〈プロサッカー選手〉

18 いわて高校生映像制作プロジェクト

20 Re:stitch ~読者のみなさんから~

21 プレゼント



Facebookでも  
情報を発信中!

発行日／2014年9月16日

企画・編集／株式会社ラヂオもりおか

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21

TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153

デザイン／冬部幸治(創造集団 志庵)

印刷／山口北州印刷株式会社

Special Thanks／取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に  
厚く御礼申し上げます。

※掲載されている情報は平成26年8月31日現在のものです。  
発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。

※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業によつ  
て発行されています。※無断転載禁止

# 今、 どうして?<sup>?</sup>



## 3年6ヶ月後の現実 改めて知りたい、復興のこと

東日本大震災から3年6ヶ月。被災地のニュースを、新聞やテレビで目にすることはだいぶ少なくなりました。けれど復興の道は長く続く道。まだまだ終わりではありません。知る機会が少なくなった今だからこそ、改めて「復興のこと」に思いを寄せてみませんか。

「今、どうしてる?」—被災地で暮らす人たち、復興を支える人たちに、いろいろな質問を投げかけてみました。



- ほかにも、こんな質問
- あぶたが元気をもった人は?
  - 復興支援で岩手に来た人の今
  - これから町にほしいもの



番外編

## こんな質問にも答えてもらいました。

### ①震災後、あなたがうれしいと思った、元気をもらった人はいますか？

支援活動で宮古に来てくれた人など、震災がなければ会うことはなかったかもしれないとの出会いが嬉しかったですね。遠くから駆けつけてくれたその人たちに、本当に元気をもらいました。

●宮古市／50代男性 自営業

ボランティアや支援活動でまちにきててくれたことがきっかけで出会い、3年以上経った今でも継続的に通ってくれる人たちがいます。震災前

までは見知らぬ人同士。でも今では「友達や家族」のような、大切な存在です。

●大槌町／40代男性 自営業

震災が発生してすぐに駆けつけてくれ、ずっと私たちを守り支えてくれた自衛隊・警察官の人達に感謝！本当に、ありがとうございました。

●山田町／50代女性 会社員

### ②復興支援のために岩手にやってきて（またはUターンしてきて）、今現在岩手で暮らしている方へ。みなさんは今、岩手でどんなことをしているんですか？

震災を機に東京からふるさとに戻ってきて、今は陸前高田市の津波到達地点に桜を植える活動をしています。活動には長い時間がかかりますので、これからも関わり続けたい。陸前高田市のまちづくりの一助になればと思っています。

●陸前高田市／30代男性  
NPO代表理事（陸前高田市出身）

私は内陸の出身で、震災の翌年、「復興の手助けをしたい」と岩手に戻ってきました。始めは沿岸のとある市町村で仮設住宅の支援に関わり、今は行政と協働で、地域で活動する

NPO法人や団体への中間支援を行っています。これからもずっと岩手県の復興に関わっていきたいと考えています。

●大船渡市 20代女性 団体職員（花巻市出身）

ボランティアをきっかけに岩手に来て、もう3年。今は沿岸事業者の販路拡大のお手伝いをしています。歩いていける場所にきれいな水、海、山、たくさんの自然がある岩手ならではの、美味しいものや伝統工芸品などを日本全国に広めていきたいと思っています。

●盛岡市／30代男性 サービス業（神奈川県出身）

### ③これからの（自分が住んでいる）まちにほしいもの・ことはありますか？

住むところ（住宅）がもっと増えて欲しいと思います。震災以降、家賃が高くなっている。このままではまちの人口がもっと減ってしまうのでは、と心配しています。

●大槌町／50代女性 自営業

若者の働く場所がもっと欲しいです。そうじゃないと、若い世代がどんどんまちを離れてしま

うと思うから。

●大船渡市／40代男性 会社員

若い人がほしいです！一緒にまちづくりを担っていく若い世代が、陸前高田にたくさん集まって来てほしい！

●陸前高田市／30代男性 漁師

### Q 東日本大震災に対する海外からの募金はどのくらい？

A 日本赤十字社に寄せられた海外からの募金の合計は、およそ1,000億円！小さな国、開発途上国からも、たくさんの善意が寄せられました。

（stitch編集部調べ ※参考資料／日本赤十字社）

日本赤十字社の「東日本大震災海外救援金受付状況」によると、110の国・地域の赤十字社、及び政府・団体、個人・企業などから寄せられた救援金合計は約600億円。これにクウェート政府から寄贈された原油も換算して加えると、約1,000億円もの支援が全世界から届いています。この海外救援金は、被災した学校の保健室の整備や病院の再建などに使われています。

#### 日本赤十字社に寄せられた海外からの救援金額

- |           |   |                 |
|-----------|---|-----------------|
| ①アメリカ赤十字社 | … | 23,096,375,050円 |
| ②台湾赤十字社   | … | 7,008,627,958円  |
| ③カナダ赤十字社  | … | 4,027,776,967円  |
| ④ドイツ赤十字社  | … | 3,335,437,740円  |
| ⑤大韓赤十字社   | … | 2,977,101,031円  |

（2014年7月31日現在）※クウェート政府からの原油輸入代金相当額40,066,027,141円は除く

### Q 被災地でのボランティア、今も募集していますか？

A 野田村では現在、ボランティアの随時受け入れはしていません。地域からの要請があるときに、その都度募集をしています。

野田村社会福祉協議会 ボランティアセンター 大平妙子さん

以前は、瓦礫撤去や写真洗浄といった作業ボランティアを随時受け入れていましたが、現在は休止し、引っ越しやイベントのお手伝いなど、地域の方からの要請があればその都度募集をしています。茶話会などの交流活動を希望するボランティア（個人・団体）については現在募集中で、当会、および地域のサロン活動に参加していただけるよう調整しています。

岩手県社会福祉協議会のホームページ「明日へ進もう!!いわて」では、野田村を含む沿岸部各ボランティアセンターのホームページ・ブログのリンクを掲載しています。ボランティア募集情報など、ぜひチェックしてみてください。

岩手県社会福祉協議会 復興支援ボランティア情報ホームページ「明日へ進もう!!いわて」<http://iwate-svc.jp/>

### Q 報道で耳にする「雇用のミスマッチ」。原因はなんですか？

A 求人数にはパートや期間雇用、建築・介護といった専門技術職も含まれます。そのため希望する「働き方」や「職種」とのズレが起きているのです。

釜石公共職業安定所 所長 鈴木強司さん

2014年6月の釜石市・大槌町の月間求人倍率（求職者一人当たりの求人数）は1.30。数字だけを見ると求人のほうが求職者より多いですね。しかし、求人にはパートや期間雇用も含まれているため、正社員として働きたい求職者との「働き方のミスマッチ」が起きています。また、希望者の多い「事務職」は求人が少なく、逆に建築・土木・介護などの「専門・技術職」は求人にに対し求職者が少ない「職種のミスマッチ」もあります。

若者たちが地域の未来を担う「働き手」として安心・安定して暮らせるまちにするためにも、この「雇用のミスマッチ」を解消することが、被災地の労働環境を整えるうえでの課題となっています。

### Q 自宅が被災したら、残った住宅ローンはどうなりますか？

A 津波で自宅が全壊しても、ローンが消えるわけではありません。しかし「被災ローン減免制度」を活用することで、その負担を軽くすることができます。

岩手弁護士会 会長 株田裕之さん

震災で自宅が被災しても、住宅ローンは残ります。その負担を少しでも軽くし、1日も早く生活再建できるようにとつくられたのが「被災ローン減免制度（個人債務者の私的整理に関するガイドライン）」。義務金や支援金のほかに、上限500万円（原則）の現金や預金を手元に残し、残りのお金や土地の買い上げ代金で債務を整理する制度です。

弁護士会では、震災直後から避難所を巡回し、さまざまな相談に対応してきました。この制度を活用してもらうための相談会や説明会もそのひとつ。被災者の方々が、希望とともに新しい生活へ踏み出しができるよう、今後もお手伝いをしていきます。

岩手弁護士会では、東日本大震災で被災された方を対象に、電話無料相談の開設や無料相談会の開催等を行っています。詳しくはホームページで確認を。<http://www.iwateba.jp/shinsai>

# 三陸うまいもん紀行



昔なつかしい甘いカレーとカツがとまらない

## カツカレー大盛り

1,230円

たまねぎをたっぷり煮込み、子供も食べられるようにと優しい甘さに仕上げたカレーラー。お肉もゴロゴロ入って食べごたえあり。ご飯は2人分もある大盛り。大きなカツはサクサクで、カレーラーがまるでソースのように絡む。同店で長年愛されてきた人気メニュー。カツカレー普通盛(980円)、特盛(1,500円)も。

### 坂本食堂

● 岩手県大船渡市盛町字内ノ目4-11  
☎ 0192-27-9850  
營 11:45~14:30, 17:15~19:30  
休 不定休

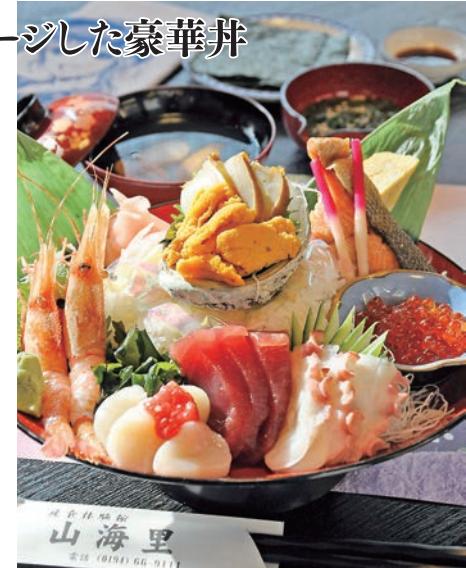


心もおなかも満腹!  
ボリューム満点な三陸の大盛りグルメを紹介!

## 大海原に輝く海女さんをイメージした豪華丼

### 海女丼 2,980円

道の駅くじ「やませ土風館」にある「地場食材レストラン山海里」では、新鮮な魚介をふんだんに使った「海女丼」が大人気! 大海原に見立てた器に、優雅に潜る海女さんの脚をイメージしたボタン海老などを盛り「北限の海女」が素潜り漁をしている様を表現。海苔で手巻きにしたり、めかぶやいくら、三陸産のあわびをほおばったり、思い思いの食べ方で豪華丼を堪能できる。オリジナル手ぬぐい付きで、1日限定5食。要事前予約。



### 道の駅くじ やませ土風館 地場食材レストラン山海里 [さんかいり]

● 岩手県久慈市中町2-5-6  
☎ 0194-66-9111  
營 11:00~19:00 (LO 18:30)  
休 年末年始



鬼が食べる? 大きなおにぎりに驚き!

### 赤鬼定食 970円

まず、目に飛び込むのが大きなおにぎり!「鬼が食べるような定食」をイメージして作ったという男性に人気のメニュー。使うご飯はお茶碗大盛3杯分で、たて16cm、横16cmもある。程よい塩加減で仕上げ、中にはごまを和えた鮭フレーク。汁物は、自慢の手打ちそばかうどんを選べる。大きな野菜かき揚げの下には、通常1.5倍の大盛り麺! 煮干しとさば節を使ったやさしい甘のだし汁でお腹いっぱい食べられるお得メニュー。女性向けに小さなおにぎりがついたミニ赤鬼定食(860円)もある。

### 鬼は内

● 岩手県久慈市夏井町閉伊口2-49  
☎ 0194-52-0841  
營 11:00~20:00  
休 第2、第4木曜



もっと、岩手三陸の「いま」を伝えたい。そんな思いで企画したStitchプレゼンツのツアーを、2014年7月19日、20日の2日間開催しました。今回は陸前高田市を巡ってきましたよ!

# Stitchプレゼンツ レポート 岩手三陸魅力発見 ボランティアツアー

2  
日目

9:00～

高田町うごく七夕まつり森前組



●森前組の代表佐藤徳政さん。森前地区と盛岡を繋ぐ地域連携のプロジェクト「MORIOKA MORIMAE CROSS」も進めています。

○みんな黙々と作業



○完成！



12:00～  
奇跡の一本松見学  
●雨の中、一本松を見学。高さ約27メートル。現在はモニュメントに。



13:30～  
鶴亀餃でランチ



●未来商店街にある仮設店舗で元気に営業中！上ちらし寿司(1,600円)を頂きました。  
●岩手県陸前高田市竹駒町字相川I-1  
陸前高田未来商店街内  
TEL0192-54-2998 曜11:30～21:30 (不定休)

17:00 盛岡駅到着！お疲れ様でした！



○花飾り作りをお手伝い



○みんな黙々と作業



○完成！

●高田町うごく七夕まつりに参加する森前組でボランティア活動。うごく七夕につける飾り作りのお手伝いをしました。8月7日には旧市街地を森前組の山車が練り歩きました。

「復興について語り合うことで、今はそれぞれが出来ることをしていけねばと思った」。そうツアーアを振り返る京都府から参加の男性。東京都から参加の女性は「『何かしてあげなきゃ』ではなく、『前向きに』考えていくことが大事。陸前高田の人たちが乗り越えていかなければいけない現実を目の当たりにし、そのことを強く実感しました」と話してくれました。

## 陸前高田での様々な人の出会いから

をつくりていきたい」と、理事の松本玄太さん。その視線は陸前高田市の未来を見つめています。翌日は、旧暦の七夕8月7日に行われる年中行事「うごく七夕まつり」の準備が進む森前組へ。「大事なものは全て流されたけど、まつりはやる。もしも（高台移転で）うごかない七夕になつても、心だけはうごく七夕を目指したい」。そう話してくれた森前組代表の佐藤徳政さん。震災で母親と妹を亡くし、東京から帰郷。津波で壊滅した森前地区の山車を2013年に復活させました。今年もまつりが盛り上がり、みんなが笑顔になりますように。そんな願いを込めながら、山車の飾りづくりをお手伝いさせてもらいました。

1  
日目

10:00～  
盛岡駅を出発！

11:40～  
道の駅みやもりで休憩タイム！



●恋の聖地・メガネ橋の上を通過する「SL銀河」！みんなで手を振りながら見守りました。遠野市のキャラクター「カリンちゃん」「くるりんちゃん」も来っていましたよ～

※ツアー参加の方方が制作したり。「震災を忘れないでほしい」という願いを込め、訪れた被災地の写真をしおりにして、出会った人に配っているそう。

16:30～  
SAVE TAKATAを訪問



●SAVE TAKATA理事の松本玄太さんによるこれまでの活動、陸前高田のこれからまちづくりについてお話を聞きました。震災復興を考える機会にSAVE TAKATA  
<http://savetakata.org/>

14:00～  
陸前高田に到着！



●震災語り部ガイドの實吉さんの案内で陸前高田を一周。震災当時を振り返り、その場所で起きた生々しいエピソードを伝えてくれました。参加者が涙する場面も。

18:30～  
交流会！



●Stitch vol.10の特集「ハナミズキのみち」に登場した浅沼ミキ子(右)さん、stitch制作チームのフリーライター鈴木いづみさん(左)も交流会に参加。美味しい料理とお酒を堪能しながら、これから復興について熱いトークが繰り広げられました。

陸前高田市を生産している「米崎りんご」のブランディングや雇用創出、定住者創出を目的としたさまざまな事業を展開。「今だからこそ都会ではできない、いろんな挑戦ができるまち。地域ごとのニーズや課題を認識して陸前高田ブランドをつくりたい」と、理事の松本玄太さん。その視線は陸前高田市の未来を見つめています。翌日は、旧暦の七夕8月7日に行われる年中行事「うごく七夕まつり」の準備が進む森前組へ。「大事なものは全て流されたけど、まつりはやる。もしも（高台移転で）うごかない七夕になつても、心だけはうごく七夕を目指したい」。そう話してくれた森前組代表の佐藤徳政さん。震災で母親と妹を亡くし、東京から帰郷。津波で壊滅した森前地区の山車を2013年に復活させました。今年もまつりが盛り上がり、みんなが笑顔になりますように。そんな願いを込めながら、山車の飾りづくりをお手伝いさせてもらいました。

## 陸前高田を訪ねて

2014年7月19日、盛岡駅を出発した一行は陸前高田市へ。陸前高田市観光物産協会・實吉義正さんのガイドで市内を巡ります。

約15mの津波が押し寄せたという、当時の實吉さんの勤務先「道の駅タピック」や、被災した気仙中学、旧駅前ロータリー、米沢ビル、それぞれの場所で何が起きたのかを説明しながら、昔から伝わる4つの教え「川沿いに避難するな」「津波の二度逃げ」「津波は高さで逃げる」「津波でんでんこ」を紹介する實吉さん。「陸前高田市の犠牲者は1763人。自分の知り合いは、と数えたら320人くらいが津波で亡くなっていた」。そんな言葉に、起きた事の重さを改めて胸に刻みました。

次に訪れたのは、陸前高田出身者たちが震災後に立ち上げた「SAVE TAKATA」。現在は「農業・IT・若手育成」を軸に、「震災前よりも発展した陸前高田市」の実現を目指し活動しています。

陸前高田市で生産されている「米崎りんご」のブランディングや雇用創出、定住者創出を目的としたさまざまな事業を展開。「今だからこそ都会ではできない、いろんな挑戦ができるまち。地域ごとのニーズや課題を認識して陸前高田ブランド



6月10日、大宮中学校の創立50周年を記念し、開催された「スポーツアスリート対談」。出演は、小笠原選手（平成6年卒業生）のほか、ハンドボール選手としてソウルオリンピックに出場した首藤信一さん（昭和54年卒業生）、スキー選手としてアルペールオリンピック等で活躍した三ヶ田礼一さん（現PTA副会長）。世界的アスリート3人が、それぞれの中学校時代、国際舞台を経験したことなどを、後輩たちに伝えました。

小笠原選手が「一番サッカーを練習した時期」と振り返る、母校・大宮中学校の廊下で。

**Q** 高校時代を過ごした大船渡。まちの状態を見て何を感じましたか。

自分が通っていたお店とかが津波でなくなっていたりして、ショックでした。自分が高校時代にお世話になつた人たちも大変な思いをして、避難所に身を寄せていました……。でも、そんな厳しい状況の中にいるのに他人を気遣うやさしさを持っていて。みんなすごい、強いなって思いました。

**Q** Jリーグの開幕直後に震災が発生。その後Jリーグは4月下旬に再開しましたが、そのときの気持ちはどうでした。

## 小笠原 満男

[プロサッカー選手]

復興の力になりたい。東北に恩返ししたい。  
その思いがあるから、サッカーももっと頑張れる。



今回のstitchインタビューは、プロサッカー選手・小笠原満男さん。母校・盛岡市立大宮中学校の創立50周年を記念した「スポーツアスリート対談」に出演後、お話を伺いました。Jリーグ鹿島アントラーズで活躍する一方、東北復興に力を入れている小笠原選手は「寡黙」だけど熱い心を持った人。そんな「強さと優しさ」を改めて感じたインタビューでした。

**Q** 今日の母校でのアスリート対談、後輩たちの前で話してみてどうでしたか？

中学生って、大人との関わりが難しい年頃だと思うんですが、素直に話を聞いてくれてうれしかったですね。自分の中学校時代のこと、その後のサッカー人生のこと、それから被災地での活動のことも話させてもらいましたが、今日会場にいた生徒の中から、将来復興支援に携わる人が出てくれたらうれしいなと思います。

**Q** 震災直後からさまざまな支援をされ

たか?

そうですね……正直、岩手や被災地のことが気になつていきました。サッカーをしていていいのか、という気持ちがあつたと思います。

Q プロとしてサッカーにまい進する傍ら、「東北人魂を持つJ選手の会」を発足。チャリティーマッチの開催をはじめ被災地での

サッカー教室、グラウンドを作るなど、現在も支援活動を継続して

いますね。

被災地の子どもとふれあう機

会があつて、「どうしたらサッカーが上手になれるか」と質問した子がいました。自分は「練習すればうまくなるよ」って答えたんです。そしたら「練習したくても場所がない」って。ショックでした。この子たちにサッカーができる環境を整えてあげるのも、サッカー選手としての自分ができることだ

の前に出るのは苦手なのですが、自分が話すこと、多くの人に復興支援や被災地の現状を伝える機会が増えれば、と今は思っています。

Q 被災地で頑張っている方々の存在も、小笠原選手の支えになつているのかな、と思うのですが。

はい、もちろん。自分が試合で活躍するとみんな喜んでくれる、すごく応援してくれる。それがとてもうれしいし、サッカーでみんなをもっと楽しませたい。だからもつと頑張ろうって思える。みんなから力をもらっていることを実感しています。

Q 震災から3年が経ちました。何度も被災地に足を運び、支援をしてきた小笠原選手から見て、被災地の復興をどう感じますか？

そうですね。だいぶ生活が落ち着いてきたとはいえ、仮設住宅で暮らしている人は今も多いし、商店街や学校だって仮設。まちはまだま「仮」の状態です。早く日常生活を取り戻せるようになつてほしい。せめて住むところだ

と思いました。

Q そうした支援活動に取り組むなか、チームメートをはじめとするサッカー選手やサポーターなど、多くの人が小笠原選手に賛同し、応援していますね。「自分にできることがあれば」って、本当にいろんな人が協力してくれまし

**自分が試合で活躍するとみんな喜んでくれる、応援してくれる。それがとてもうれしいし、サッカーでみんなをもつと楽しませたい。**

た。被災地に寄付するボールを用意してくれたり、その箱詰め作業もみんなでやつて……。サッカーでつながるひとつの中「チーム」っていうのかな、そういう心強さを感じましたね。

Q その反面、試合での調子があまりよくないときは「復興支援ばかりしているからだ」と言われたこともあつたよ

けでも「仮」じゃなくなつてほしいと思つているのですが……。

Q 「震災の風化」が懸念されている今、これからの中の復興支援はどうあるべきだと考えますか？

これからどうするべきか、何が正しいのか。それは自分にも分かりません。でも「他人事だと思わない」ことのなかなつて。震災の経験をこれからの中にはどう活かすかを考えるべきなのは、被災地の人だけじゃないと。

Q これからも支援をしていきたいと話していましたが、「継続する」って難しいことですよね。それを支えているものはなんですか？

自分がプロとしてサッカーをやっていくているのは、これまで支えてくれた人たちのおかげ。だから今度は自分が恩返しをしたいという気持ちです。まずは、サッカー選手としてちゃんと活躍すること。それが大前提。そのうえで、自分なりにできることをしていくと思っています。

うですね。

調子が悪ければ叩かれるのはあたりまえ。それがサッカー。でも調子が悪いのは自分の責任であつて、震災があつたからとか関係ないんです。それを復興支援のせいだと言わわれるのは、なんていうか……すごく悔しかつたです。一方で、結果をきちんと残せば、みんな支援活動についても評価してくれるし、応援してくれる。まずはサッカーで活躍できなければ意味がない。そのことは自分にとつて原動

力になりましたね。

Q 復興支援が、サッカー選手としてのモチベーションにもなつてている、と。そうです。こうしていろんなところで被災地の現状や支援について話す機会をいただけるのも、自分が選手として評価されてこそだと思っています。もともとは人前で話したり、マスコミ



小笠原満男 [おがさわら・みつお]

1979年盛岡市生まれ。小学校からサッカーを始め、地元の大宮中学校卒業後、大船渡高校へ進学。全国高校サッカー選手権でベスト16、ユース日本代表として国際ユース大会にも出場。1998年、高校卒業と同時に鹿島アントラーズに入団。2000年の3冠（ナビスコカップ、Jリーグ、天皇杯）に大きく貢献するなどチームの主力として活躍。2002年日韓、2006年ドイツワールドカップにも出場するほか、個人でも日本年間最優秀選手賞、Jリーグ最優秀選手賞など数々の賞を受賞。また、東日本大震災後は「東北人魂を持つJ選手の会」を発足し、サッカーを通じた被災地支援、復興支援にも精力的に取り組んでいる。

「東北人魂を持つJ選手の会」ホームページ <http://tohokujin-spirit.com/>

## 岩手めんこいテレビ いわて高校生 映像制作プロジェクト

プロジェクトに参加している高校生たちが制作した映像作品は、下記ホームページから閲覧できます。また、映像作品へのメッセージも募集しています。

<http://www.menkoi-tv.co.jp/mirai/>

「いわて高校生映像制作プロジェクト」ドキュメンタリー  
特番(仮) 9月20日 14:00~14:30(30分)放送予定

### イベントINFORMATION

岩手沿岸の染め物・織物企画展

## 「染・織・彩」

岩手沿岸の特徴的な染物である藍・草木染や、山ぶどう染、鉄山染など沿岸の風土が織り成した魅力的な染物・織物作品を集め南昌荘で展示販売します。また、着物や古布のリメイクファッショショーも開催。

- 日 時 / 2014年11月1日(土)・2日(日)
- 時 間 / 10:00~17:00
- 場 所 / 南昌荘(盛岡市清水町13-46)
- 入園料 / 大人200円、小中学生100円。
- 主 催 / もりおかクリエイティブ・ラボ
- 問い合わせ先 / NPO法人 遠野まごころネット盛岡事務所  
もりおかクリエイティブ・ラボ 電話019-613-8470

※盛岡市絆・デザイン魅力創造事業(平成26年度盛岡市緊急雇用創出事業)

た」。そう話してくれたのは、交流会に参加した金澤楓花さん(宮古高校)。内陸の高校生藤田航輔さん(岩手高校)も「自分が思っているのと現状が違った。もっと声を聞いて考えていかなければと思いました」と振り返るなど、お互いの顔を見ながら意見を交わす交流会は、復興を改めて見つめ直す機会になったようです。

映像でつなぐ・つながる内陸と沿岸の高校生たち

# いわて高校生 映像制作プロジェクト

[盛岡市映像による情報発信と人材育成事業]



内陸の高校生たちは、交流会の前に被災地を視察。旧菅久菓子店前にある追悼の塔を前に、陸前高田市商工会青年部部長の菅野秀一郎さんが「自分の命を守りながら家族の命も助けて欲しい」と呼びかける。

岩手めんこいテレビの高橋裕二アナウンサーからアドバイスを受け、今後の活動に生かすスキルを学んだほか、座談会ではそれぞれの地域の魅力を探りながら、地域をどうPRしていくべきかをディスカッション。沿岸の高校生からは仮設住宅で暮らすことの不便や建物の老朽化、部活

などの運動ができる場所が少ないとといった、実生活で直面している問題についての意見も飛び出し、復興のために自分たちができるることを積極的に話し合いました。

「内陸の学生は」実際に住んでいる私より深刻に考えていて、復興を(他人事として)見るだけじゃなく行動に移してくれるだけじゃなく行動を感じまし

盛岡と沿岸の高校生が、映像による情報発信と人材育成事業」。盛岡市からは盛岡第一高校、岩手高校、盛岡市立高校、沿岸地域からは宮古高校、が実施している「いわて高校生映像制作プロジェクト(映

2014年8月4日、プロジェクト参加校による交流会が大船渡東高校で行われました。これまで制作した映像作品について岩手めんこいテレビが参加し、それぞの自由な発想で映像を制作。岩手めんこいテレビを通じて情報発信をしています。

2014年8月4日、プロ

ジェクト参加校による交流会が大船渡東高校で行われました。これまで制作した映像作品について岩手めんこいテレビが参加し、それぞの自由な発想で映像を制作。岩手めんこいテレビを通じて情報発信をしています。

宮古工業高校、大船渡東高校が参加し、それぞの自由な発想で映像を制作。岩手めんこいテレビを通じて情報発信をしています。

各高校が混ざっての座談会では、復興について真剣な意見交換が行われた。



### つなげるstitch! 歓迎!!

## 岩手大会

### 第55回 全国スポーツ推進委員研究協議会

『復興団体』と位置づけた2年後の希望郷いわて団体に先駆け、全国から約3,500人のスポーツ関係者が、ここ盛岡に集います。

震災後初めて被災県での開催となり、「スポーツで生み出す絆と和」を大会テーマに、講演やシンポジウム、分科会を通して、これから地域スポーツ、生涯スポーツの将来を考えます。

ちなみに、本紙12ページに登場している“語り部”實吉義正さんもスポーツ推進委員ですよ!

1日目の講演は、岩手大学出身で、ソチパラリンピック金メダリスト狩野亮さんです!

●日 時 / 9月25日(木)・26日(金)

●場 所 / 盛岡市アイスアリーナ(1日目)

●参加者 / 各都道府県スポーツ推進委員 約3,500人

スポーツ推進委員は、全国に約51,000人いる市区町村のスポーツを推進するキーパーソンです。震災後には、全国の推進委員の皆様から、本県被災地へたくさんのご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

●問い合わせ先  
第55回岩手大会実行委員会事務局  
(岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課内)  
TEL 019-629-6189

# 読者プレゼント

## 1 えん椿ストラップ



大船渡市在住の被災者で結成したボランティアグループ「おもてなし隊」が大船渡市の花である「椿」をモチーフに、縁がつながりますようにとこま結び、几帳結び、ウッドビーズに願いを込めて手作りした「えん椿ストラップ」を3名様に。大船渡おもてなし隊フェイスブックページ  
<https://www.facebook.com/Ofunatoomotenashitai>

■提供/Stitch編集部

3名様

## 2 タコのアホ



宮古港で水揚げされた柔らかい「真たこ」をにんにくと高級オリーブオイルに漬けた逸品。「アホ」とはスペイン語でにんにくの意味。竜田揚げやボテト、パスタに和えて美味しい山根商店(宮古市)の「タコのアホ」を3名様に。  
直販サイト  
<http://0-8-0.com/>

■提供/山根商店

3名様

## 3 茎わかめとわかめの佃煮セット



津波で壊滅的な被害を受けた古須賀商店(宮古市)の再建した工場でつくる、三陸産の新鮮なわかめを使つゝて生活協同組合商品「真崎わかめ使用味付茎わかめ」中華味としょうが味、「わかめの佃煮わさび風味」をセットで5名様に。いわて生活協同組合サイト <http://www.iwate.coop/>

■提供/いわて生活協同組合

5名様

## 4 のだ塩さばめしの素 たんたん米セット(2合用)



長根商店(洋野町)の復興再建の中から生まれた商品。昔ながらの製法で作られた「のだ塩」を使用。北三陸で水揚げされた良質なサバを使った磯風味の炊き込みごはんの素と岩手県雫石町産「たんたん米」2合をセットで2名様に。  
直販サイト <http://39kinoko.cart.fc2.com/>

■提供/長根商店

2名様

## 応募方法

- 応募方法/必要事項(希望商品、郵便番号・住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、本誌入手場所、ご意見・ご感想)を記入の上、はがき、もしくはメールでご応募ください。
- 宛先/〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21 ラヂオもりおか内「Stitch」編集部 プレゼント係
- アドレス/stitch@morioka-fukkou.com
- 応募締切/平成26年11月7日必着

## Stitch 設置場所

【岩手県内・盛岡】MOSS/クロステラス盛岡/盛岡南SCサンサ/ななっく/おでって/アイーナ/盛岡バスセンター/IGRいわて銀河鉄道/もりおか歴史文化館/岩手県立図書館/盛岡市立図書館/ジョブカフェいわてなど街中各店/岩手県内道の駅/三陸沿岸各店 【岩手県外】いわて銀河プラザ(東京)/岩手もりおか復興ステーション(東京)/Cafe Hi famiglia(東京)/さくらWORKS <関内>(神奈川)/喫茶ともしう(東京)/Rumble and Jungle(北海道)/風の駅(京都)/OMAR BOOKS(沖縄) 他

次号 Vol.14は、12月中旬発行予定

# Re:Stitch

～読者のみなさんから～  
Stitch(ステッチ)に寄せられた声の一部を紹介。みなさんのご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいきます。これからもご意見・ご感想よろしくお願ひします。

母が三陸沿岸を旅した時に、どこかのお店でもらってきたものです。若者の座談会の特集が興味深かったです。地元を好きという気持ち、好きじゃなきゃいけない?というプレッシャーのようなもの……多くのものを抱えながらそれでも地元を盛り上げたいと思っている事が痛いほど感じられました。また、裏表紙の海とヨットの画、とても気持ちの良いものでした。

●30代 女性/会社員(盛岡市)

「18歳、私たちの選択」を読みました。震災に遭って大きな経験をしたにもかかわらず、相手の事を思いやる心は素晴らしいと思いました。岩手の若者は強い、岩手の未来をみんなで明るく出来ると信じています。

●30代 女性/パート(久慈市)

暑い日が続いております。お元気ですか。雑誌を見ての感想は等身大の今を伝えていたるなあと思いました。特に「未来は自分で描くもの」の座談会は良かった。地に足がついている飾らない若者達の言葉が未来に勇気と希望を持たせてくれています。

●60代 女性/主婦(北海道)

毎回、読ませていただいているが、インタビューの記事いつも楽しみにしています♪ 今回は写真家の浅田さんのインタビューで、写真を「モノ」としてアルバムに残す大切さ…改めて、そうだな。と思いました。私も小さい頃のアルバムがあるのですが、久々に開いてみようかなと思いました。

●20代 女性/会社員(盛岡市)

初めて読ませていただきました。震災の年の6月に山形から仕事で移動してきてから3年。私の岩手での生活の時間がそのまま復興の時間でもありました。この3年で何回か沿岸を訪問ましたが、まだ仮設住宅の推移を見ると厳しいのだと感じます。そんななかでの今回の18歳の若者の主張はとても重く、でも未来への期待も感じられるようなあったかい内容でした。

●30代 男性/会社員(一関市)

娘から「読んでみて」と手渡され読ませていただきました。ズッシリ心に響く内容と明日へのエネルギーを感じました。次号も手にしたいと思います。

●50代 男性/社員(奥州市)

「ファインダーから被災地を見つめた3年間」を読み、どんな状況であろうと記録に残しておくことの必要性を感じました。沿岸に住んでいる方には思い出したくない記憶かもしれません、内陸や都会に住んでいる方には震災は過去のことと思っている方も多いと思います。だからこそあの日のことを忘れないためにも、このような写真展をこれからもしていって欲しいと思います。

●50代 女性/主婦(盛岡市)

初めてStitchを読みました。岩手県の復興にかける熱い想いがとても伝わり、私も祖母、叔父、叔母を津波で失い、とてもとても気持ちが分かります。お互い、被災地が共に元気になるようこれからも頑張りたいですね。多くの情報と、写真がとてもきれいで読みやすいと皆さんの気持ちが伝わり感動しました。

●40代 女性/パート(宮城県)

## 全国にStitchを広めようプロジェクト!



Stitchの配布にボランティアで協力してくれるサポーター(個人、企業・団体)を随時募集しています。Stitchを全国に広めることで、少しでも震災の風化を防ぎたい! みなさんのご協力、お待ちしています。(年4回発行/6月、9月、12月、3月)。

A Stitch配布サポーター【一口10部から】 ご近所やお友達、グループなどにStitchを配布していただける個人。

B Stitch サポーターショップ・団体【一口30部から】 Stitchを設置していただけるお店、企業、団体。

※詳細は、HPまたはFacebookページ (<https://www.facebook.com/moriokastitch>) をご確認ください。

【募集方法】メール・はがきに①氏名( Bの場合は企業・団体と代表者名) ②住所(郵便番号も) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤希望口数 ⑥(Bの場合) 設置予定の場所と方法 ⑦ご意見・ご感想を記入の上、ラヂオもりおか内「Stitch編集部 サポーター係」宛てに応募。

【応募先・問い合わせ】stitch-supporter@morioka-fukkou.com

※郵送先住所は、左側のプレゼントページを参照